

第10回小児がん中央機関 アドバイザリーボード会議

(2024年1月23日看護部会開催)

2024年3月11日(月)
国立成育医療研究センター
看護部長 嶋田せつ子

第1部 各施設発表 第2部 看護部長会議

令和5年度 第4回目発表 (2023年5月30日)

1. 「CAR-T細胞療法の実際」
名古屋大学医学部附属病院
2. 「栄養管理の実際」
～NSTチームとの連携～
広島大学病院
3. 「家族会の開催における当センターでの取り組み」
神奈川県立こども医療センター

令和5年度の発表後のアンケート

アンケート主旨；発表を聞いて自施設で取り組んだこと、感想を含めて業務改革を実施していること等

1. CAR-T細胞療法の実際 (名古屋大学医学部附属病院)

- ・今後CAR-T細胞療法導入となるため、看護師用のマニュアルがあれば、見せていただきたい。

令和5年度の発表後のアンケート

2. 栄養管理の実際 ～NSTチームとの連携～

(広島大学病院)

- ①参考にさせていただき院内のコンビニエンスで購入できるおすすめ食品のリーフレットを作成した。
- ②患者へ紙面でも報告がされており良いと思った。

令和5年度の発表後のアンケート

3. 家族会の開催における当センターでの取り組み

(神奈川県立こども医療センター)

- ①家族会の開催は進んでいないため、関係するMSW等の多職種と情報を共有して、開催に向けて検討している。また、成果として挙げられていないが、他職種にも分かりやす内容でとてもよかった。
- ②家族サロンや家族教室など参考になった。

令和5年度 第5回目発表 (2024年1月23日)

1. 「看護師によるCVからの血液培養検査実施に向けた取り組み」
埼玉県立小児医療センター
2. 「多職種連携の実際」
北海道大学病院
3. 「小児のブリナツモマブ投与中のQOL向上に向けた看護支援の紹介と神経芽腫に対する抗GD2抗体療法における看護師の役割」
国立成育医療研究センター

「看護師によるCVからの血液培養検査実施に向けた取り組み」 (埼玉県立小児医療センター)

■本活動の成果

発熱後、血培採取～抗菌薬投与までの平均時間
18.2分短縮できた。

1. 発熱後、速やかな抗菌薬の投与
2. 正確な検体の採取
3. 当直医/オンコール医師のタスクシフト
4. 看護師の血培採取技術の習得

■質問;・針刺し事故はなかったのか⇒ない

- ・抗菌薬の処方について⇒病棟にストックしている
- ・抗菌薬選択について⇒事前に医師から指示が出ており、医師の指示に従って与薬をしている。
- ・デバイスによる違い⇒CVとピックのみ実施。ポートは対象外

「多職種連携の実際」（北海道大学病院）

- ・多職種カンファレンス（1回/週）
- ・小児科児童精神科合同カンファレンス（2～3回/月）
- ・小児緩和ケアチームラウンド（1回/週）
- ・血液グループカンファレンス（1回/週）
- ・小児外来・小児科病棟情報交換（1回/週）
- ・ひまわり分校病棟連絡会（1回/月）

■まとめ

- ・職種の専門性の理解や目的・方針を共通認識できチームワークが強化される。

■質問・ラウンド時に病棟が忙しくしている場合の連携方法

⇒CLS・保育士が病棟に配置されているので病棟と共有できるシートがあり活用している。

「小児のブリナツモマブ投与中のQOL向上に向けた看護支援の紹介」（国立成育医療研究センター）

■看護の実際

携帯型精密輸液ポンプを使用したビーリンサイト投与ラインの紹介と生活物品の使用方法和日常生活や学校生活での工夫点の紹介。

■質問

- ・輸液ポンプや加算はどうしているか ⇒ポンプは当院のポンプを使用。加算は取れない。
- ・復学支援の対応 ⇒親や学校と約束事をあらかじめ決めて対応している。
- ・退院時指導の工夫点 ⇒閉塞・電池トラブル等、家族用のトラブル対応マニュアルを作成し指導している。

「神経芽腫に対する抗GD2抗体療法における 看護師の役割」（国立成育医療研究センター）

■看護の実際

- 1) 事前準備；患者やCLS・保育士・院内学級とも共有し事前に注射時期・副作用の時期・症状を把握してもらう。
- 2) 環境調整；学校との連携、体調不良が予測されるときは前倒しで実施。
- 3) 副作用の対策・看護；薬剤使用だけではなく症状緩和など温罨法など効果的だった。

■質問

- ・CLSや保育士とはどのような共有か？ ➡薬が入る時間や眠くなる時間を共有し遊びの時間など把握してもらい、GD2が始まる前から遊びの介入してもらう工夫が大事

第2部 看護部長会 （会のメンバーのみ参加）

1. 各施設からの議題等

- 1) 日本小児がん看護学会認定に関する制度の改定についての情報提供（アドバイザーボード小川先生より）
小児がん看護学会認定看護師 ➡ 小児がん看護師に変更
学会員でなくとも研修を受けることができる。

2. 次年度の取り組み

2024年5月30日（木）看護部会開催予定

発表・共有演題（案）；テーマ「小児がん教育」

「看護研究支援」「AYA世代支援」「きょうだい支援」など
活動；交流視察の実施